

「辛坊治郎氏が「国債は国民の借金であり、60年後に償還期限が到来するので、将来の世代にツケを残すだけ」と発言しておられましたか？」

令和2年7月1日

● Peach Anne さんからの質問

先日、大阪のバラエティー番組で辛坊治郎氏が「国債は国民の借金であり、60年後に償還期限が到来するので、将来の世代にツケを残すだけ」と発言しておられました。加えて反緊縮財政派の方々を大嘘つきと呼び、嘲笑もしておりました。池上彰氏と同様の発言を行い、ご自身の番組に竹中平蔵氏をパネラーとして招くあたり末期的症状だと感じます。最も憂慮すべき事は、辛坊治郎氏のファン層が大阪維新の会の岩盤支持層と一致することであり、大阪は政策よりも好感度や期待感で人を選ぶ土地柄である故、明るい将来を思い浮かべることができません。もういい加減、宮根誠司氏も含め世論を扇動する手合いを制止することはできないでしょうか？私は、受け入れがたい将来を変えるため理論武装を行い、西田先生の主張を広めて参りたいと思います。これからもご指南をよろしくお願いいたします。

● 西田昌司の答え

私もテレビのチャンネルを回している時にバラエティー番組をちらと見ることはありますが、間違った話を平気で垂れ流している様に嫌気が差してすぐにチャンネルを変えてしまいます。辛坊さんをはじめ、公共の電波を使って好き放題に語る人物がバラエティー番組に多く登場し、彼らによって誤った方向に世論が誘導されますが、彼らにはもっと謙虚な気持ちを持っていただきたいです。

コロナ禍のために反緊縮を叫ぶ人が増えてきましたし、それなりの学者の

方々も MMT を認める発言をし始めています。辛坊さんは反緊縮・財政出動派の方々を大嘘つきと嘲笑されているようですが、これだけ反緊縮の声が高まっているのであれば、反緊縮・財政出動派の言っていることにも少しは耳を傾けてみようと普通は（公共の電波で発言している立場であればなおさら）思うはずですし、中野剛志さんの『奇跡の経済教室』や、私の『財務省からアベノミクスを救う』といった書籍を読めば、自らの誤りにたちどころに気付くはずですが、しかし、彼らは読みません。公共の電波でモノを言う人間であるにもかかわらず、当然すべき努力もせずに、非常に不真面目で無責任なのです。

辛坊さんや池上さんは早稲田大学卒というエリートですし、テレビ局に入られたのですからいわゆる秀才だったのでしょうか。なまじっかなエリート意識が謙虚さを蒸発させてしまって、そこらの政治家が言っていることよりも俺の方が正しいと思いついて上がっているのでしょうか、これはマスメディアに登場する彼らのみならず、主流派と呼ばれている経済学者の方々も似たようなものです。

東大や京大といった超難関校の経済学部を卒業した人が経済学者になったりしますが、彼らの多くは簿記・会計の知識がありません。私は滋賀大学経済学部経営学科（彦根キャンパス）卒ですし、実務家を育てることに重きを置く学科だったので簿記・会計をしっかりと教わりましたが、経済学部であっても簿記・会計が必須科目ではないところも多いのでしょうか。もちろん、学校で教わったからといってそう簡単に簿記・会計は身に付きませんし、経済学部出身の人間はごまんといっても、そのほとんどが簿記・会計を理解していません。

私は税理士試験を受けるために簿記の勉強をしましたし、税理士として仕事をしてきたので仕訳を自由にできますが、そのベースがあるがゆえに財政問題に関してもバランスシートがしっかりと頭に浮かびます。政府が国債を発行して財政支出を増やせば政府の負債は増えますが、その分が国民の資産にもなるということは当り前の感覚として理解できます。また、国債の償還

日が来たら、新規に国債を発行して古い国債と交換してしまえば事実上の無期限となるだけでなく、国債残高にも変化はありません。すなわち、国債の償還日が来ても全く問題ないのです。

国債は国民の資産ですから、国債残高を減らす必要はそもそもありません。「国の借金を減らす」と聞くと良いことのように思えますが、「国民の財産を減らす」ことでもありますし、国民からしたら何の得にもなりません。終戦直後に財産税課税を行って国債残高をゼロにしましたが、と同時に国民の預貯金もゼロになってしまいました。

国債は国の負債ですが、同様に（一万円札等の）紙幣は日銀の負債です（紙幣は償還期限がない、という違いはありますが）。我々が一万円を所有しているということは、日銀が我々に一万円分の負債を抱えているのです。そこで我々が日銀に一万円札を持ち込んで「負債を返済してください」と言ったとしましょう。すると、日銀職員はその一万円と新しい一万円を交換して借金を返すでしょう。国債も同様に、償還日が来たら古い国債と新しい国債を交換すればそれで済んでしまいます。つまり、日銀や政府は紙幣や国債といった貨幣をいくらでも自由に発行できるのですが、辛坊さんはこんなことでギャアギャア騒いでいるのです。

但し、過去には貨幣を自由に発行できない時代もありました。貨幣をそれと同等の金と交換できるという仕組み（金本位制）があるがゆえに、金の保有量によって貨幣の発行量が制限されていました。ゆえに昭和恐慌を引き起こしましたが、今では金本位制を採用している国はありませんし、貨幣の発行量の縛りはなくなっています。日銀は国債や社債や株を買い取った代金を自由に発行できますし、国も国債を発行することで自由におカネを調達できます。

辛坊さんや池上さんは公共の電波を使って国民に財政破綻の危機を煽っていますが、おそらく国債の意味すらわかっていないのでしょう。そんな彼らが事実を知ったら（普通の神経をしていれば）赤面の至りとなるでしょうし、

私であればそんな恥をかいてしまったら二度とテレビには出られません。

彼らにはもっとしっかりとした発言をしていただきたいと切に願います。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>